

DIGITAL PIANO

J-1000

取扱説明書

このたびは、ヤマハ・デジタルピアノJ-1000を
お買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

J-1000の機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくために、

この「取扱説明書」をご活用ください。

お読みになったあとは、いつでもご覧になれるところに大切に
保管していただきますよう、お願い申し上げます。

YAMAHA

安全上のご注意



ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表示について

この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意 感電の恐れあり キャビネットをあけるな		注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。 点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。
---	-------------------------------------	---	--

⚠ 記号は、危険、警告または注意を示します。上記の場合、⚠は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、⚠は注意が必要なことを示しています。

🚫 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

* お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

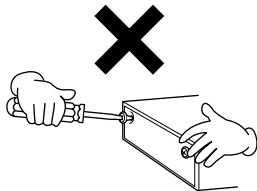
警告

この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。



この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。感電や火災、または故障の原因になります。



使用中に音が出なくなったり異常なおい煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



電源は必ず交流100Vを使用する。エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。感電やショートのおそれがあります。

注意

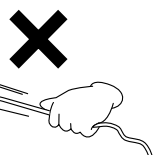
この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。



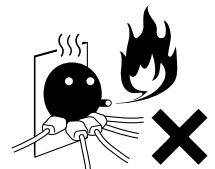
電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。



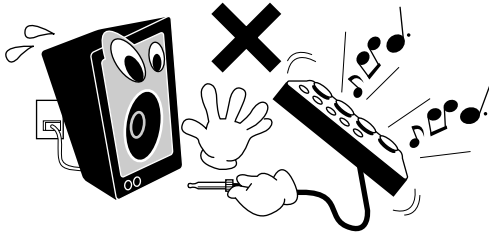
タコ足配線をしない。音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。



電源コードやプラグがいたんだときは使用しない。また、長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電、ショート、発火などの原因になります。



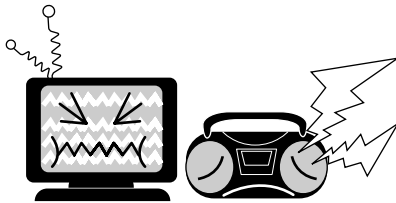
他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。
感電または機器の損傷のおそれがあります。



直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。
本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。



テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。
コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。



本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。



本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損する原因になります。



付属のスタンド以外は使用しない。また、組み立てには必ず付属の指定サイズのネジを使用する。
本体が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。



本体を壁につけない。
換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、火災が発生するおそれがあります。



大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

長時間使用しないときは、必ず電源を切りましょう。

音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのもひとつの方法です。ヘッドフォンをご使用になる場合には、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみ下さい。

*この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

特長

AWM音源により、リアルで高品位な表現が可能です。

最大28音の同時発音により、幅広い演奏表現が可能です。

ピアノのアクション機構解析から生まれた自然なタッチ感覚のAE鍵盤を採用しました。

デュアル機能により、2つの音色を重ねて演奏することができます。

メトロノームを装備しており、レッスンなどで有効にお使いいただけます。

自分の演奏を録音したり、再生させることができます。

デジタル楽器の統一規格であるMIDI端子を装備しており、演奏表現の可能性がますます広がります。

目的のページの見つけかた


必要な情報を手早く見つける方法はいくつかあります。




巻頭の「目次」を使う。
最も一般的な方法です。

「はじめに」の中の「各部の名称とはたらき」(4、5ページ)を参考にする。
ボタンなどの働きがわからなくなったときに、有効な方法です。
パネルのイラストから、関連ページがすぐに探し出せます。

表記上のきまり

この取扱説明書では、表記に次のような記号を使います。

 補足 : 補足説明です。

   : 本書の手順の説明のイラストで、ランプの点灯、点滅、消灯は、それぞれこのように表します。

付属品(お確かめください)

ヘッドフォン HPE-3
高低自在椅子 BC-25
取扱説明書(本書)

保証書
ご愛用者カード

目次

「はじめに」では、ヤマハ・デジタルピアノの特長や、お使いになる上でのご注意、読みたいページの見つけかた、各部の名称とはたらきなどについて説明します。

ヤマハ・デジタルピアノを最初にお使いになる前に、必ずお読みください。

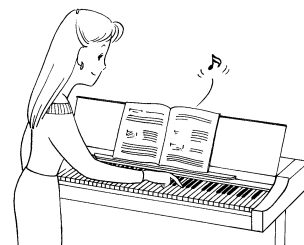
ご使用前の準備	2
音を出す準備	3
各部の名称とはたらき	4



はじめに

「基本編」では、基本的な音色選択をはじめ、ペダル効果や、演奏を盛り上げるさまざまな効果について説明します。

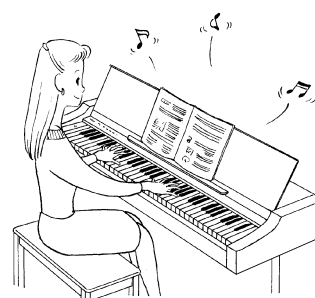
さあ！弾いてみましょう	6
デモ演奏を聴いてみましょう	7
ペダル効果	8
デュアル機能	8
メトロノーム機能	10



基本編

「応用編」では、自分の演奏を録音できるレコーダーなどの発展的な機能や、他の機器との接続方法、そしてMIDI機能について説明します。

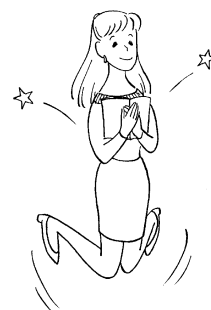
録音	12
再生	14
トランスポーズ(移調)機能	15
ピッチコントロール機能	16
他の機器と接続する	17
MIDIとは	18
MIDI機能の設定	19
MIDIデータフォーマット	21
MIDIインプリメンテーションチャート	23



応用編

「資料」では、ヤマハ・デジタルピアノの組み立てかたなど、お使いになる上で役に立つ資料をまとめてあります。

組み立てかた	24
故障かな？と思ったら	26
仕様	26
オプション(別売品)のご紹介	27
保証とアフターサービス	裏表紙

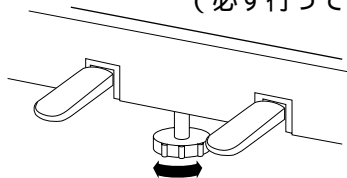


資料編

ご使用前の準備

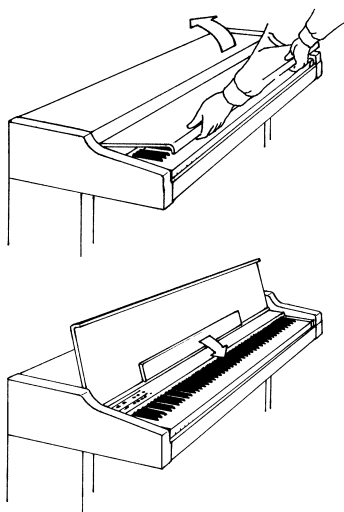
アジャスターの調節

(必ず行ってください)



設置場所が決まりましたら、ペダル下のアジャスターを回して、ペダル部を床面に固定させてください。アジャスターが固定されていないと、ペダルを踏んだときにぐらつきが生じます。

キーカバー兼譜面立ての扱いかた



開けるとき

キーカバー兼譜面立てを、止まるまでゆっくり起こします。
譜面止めレールを、止まるまで下に開きます。

閉めるとき

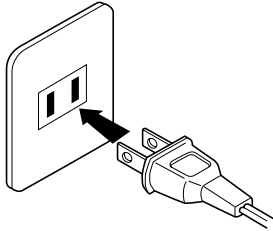
譜面止めレールを、止まるまで上に閉じます。
キーカバー兼譜面立てを、止まるまでゆっくり戻します。

- ・キーカバー兼譜面立ては、中間位置で使用または放置しないでください。
- ・キーカバー兼譜面立てを倒すときは、途中で手を離さないでください。

音を出す準備

1

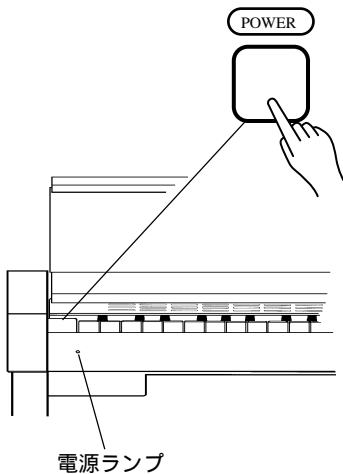
電源コードを接続する



家庭用(AC100V)コンセントに、電源プラグを差し込みます。

2

電源を入れる



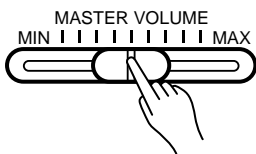
電源(POWER)スイッチを押して電源を入れます。

「電源ランプが点灯します。」

- ・もう一度電源(POWER)スイッチを押すと電源が切れます。「電源ランプが消灯します。」

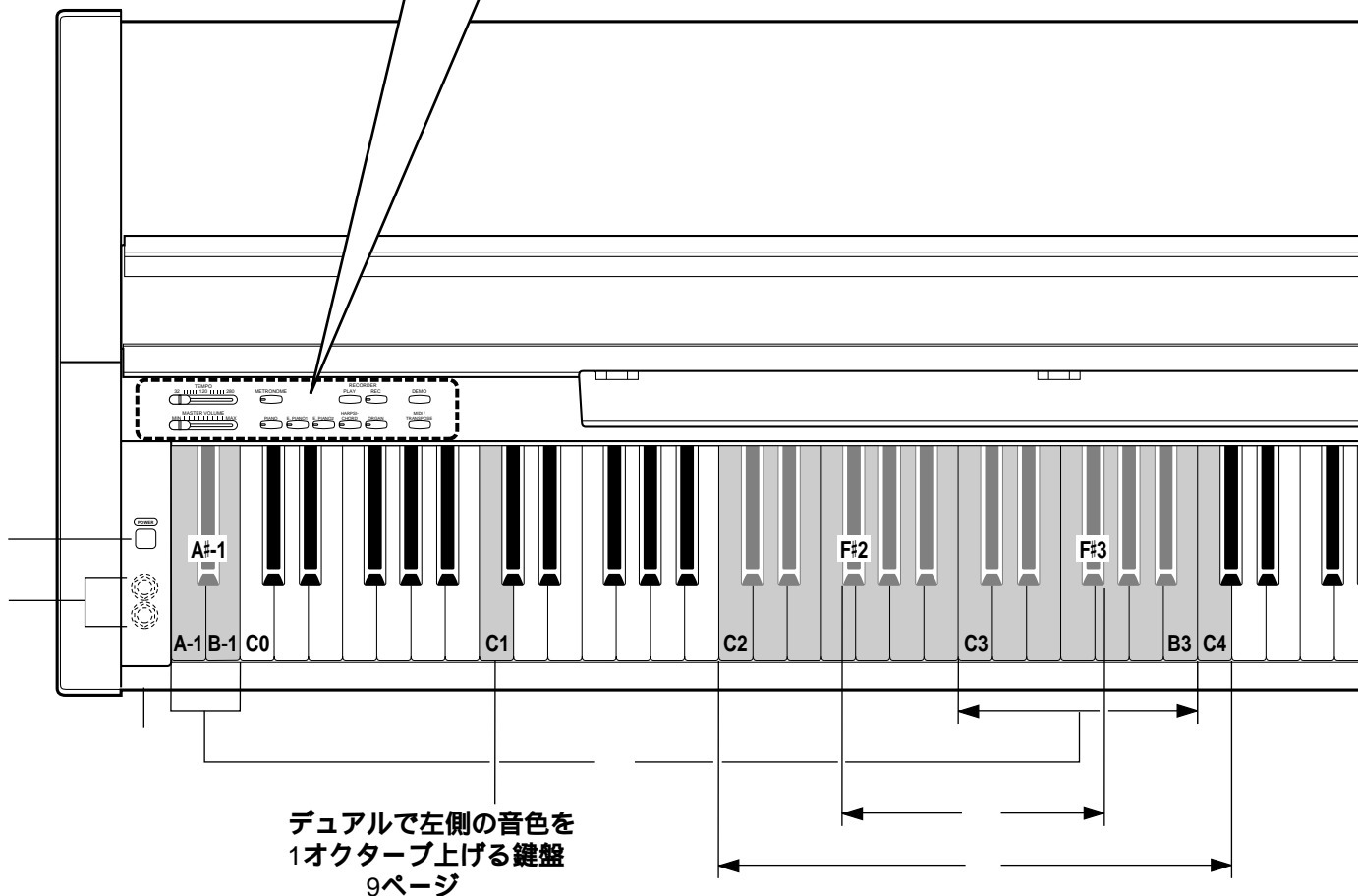
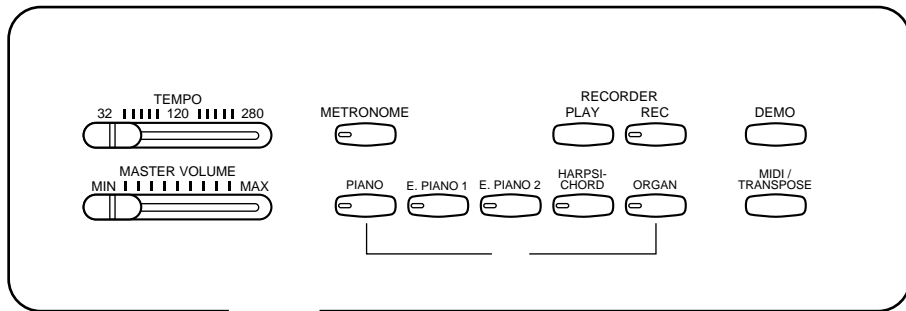
3

音量を調節する



ボリューム(MASTER VOLUME)を中程まで上げておきます。あとは、ヤマハ・デジタルピアノを実際にお使いいただきながら、調節します。

各部の名称とはたらき



矢印 のページに詳しく説明してあります。

電源スイッチ [POWER] 3ページ

電源をオン/オフするスイッチです。このスイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと切れます。

ボリューム [MASTER VOLUME] 3ページ

音量を調節するためのスライダーです。

テンポスライダー [TEMPO] 11、14ページ

テンポを調節するためのスライダーです。

メトロノームボタン [METRONOME]

10ページ

このボタンを押してランプを点灯させると、メトロノーム音が加わります。

音色ボタン 6ページ

演奏に使う音色を選ぶことができます。

同時に2つのボタンを押すことで、2つの音色を重ねて演奏することもできます。(デュアル機能 8ページ)

プレイボタン [PLAY] 14ページ

再生するときに押すボタンです。

レコードボタン [REC] 12ページ

録音するときに押すボタンです。

デモボタン [DEMO] 7ページ

デモ演奏を聴くときに押すボタンです。

MIDI/トランスポーズボタン [MIDITRANSPOSE]

15、19、20ページ

MIDI(ミディ)機能の設定をするときや、トランスポーズ(移調)の設定をするときに使用します。

ヘッドフォン端子 [PHONES] [底面 鍵盤の下]にあります

ヘッドフォンを接続する端子です。ヘッドフォンを接続すると、本体のスピーカーからは音が出なくなりますから、夜間でも周りに迷惑をかけることはありません。

2つのヘッドフォンを接続することができますので、お子様のレッスンをもう一人の方が確認したり、アンサンブルも可能です。耳をあまり刺激しないように、適度な音量でご使用ください。

電源ランプ 3ページ

電源を入れると点灯し、切ると消灯します。

ピッチコントロール用鍵盤 16ページ

ピッチ(音程)の設定で使用する鍵盤です。

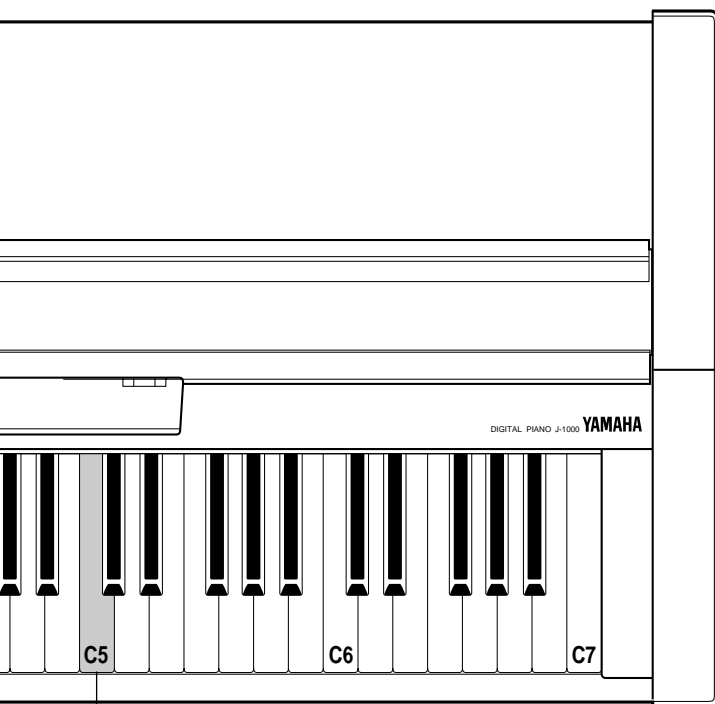
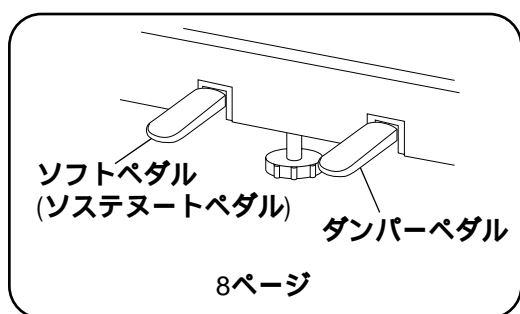
トランスポーズ用鍵盤 15ページ

トランスポーズ(移調)の設定で使用する鍵盤です。

バランス用鍵盤 9ページ

デュアル機能での音量バランスを設定するときに使用する鍵盤です。

リアパネルの説明は17、18ページをご覧ください。

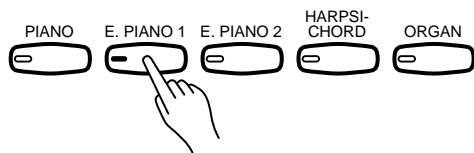


デュアルで右側の音色を
1オクターブ上げる鍵盤
9ページ

さあ！弾いてみましょう

1

音色の指定



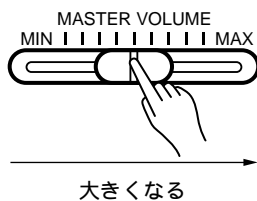
演奏したい音色のボタンを押します。

「ランプが点灯します。」

・下記の音色一覧表を参考にしてください。

2

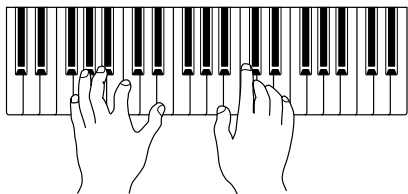
音量調節



ボリューム(MASTER VOLUME)で音量を調節します。

3

演奏



いろいろな音色に切り換えて、弾いてみましょう。

音色一覧表

音色	音のイメージ
ピアノ (PIANO)	ダイナミックで豊かな響きのグランドピアノの音色です。
エレクトリックピアノ1 (E.PIANO 1)	ストリングス風の温かい音色とハーブ風の固めの音をミックスした音です。ドビュッシーなど、夢のある曲にお勧めです。
エレクトリックピアノ2 (E.PIANO 2)	固めのクリアなエレクトリックピアノの音色です。
ハーブシコード (HARPSICHORD)	バロック音楽などでよく使われる、ピアノの原形ともいわれる鍵盤楽器ハーブシコードの音色です。チェンバロともいいます。
オルガン (ORGAN)	パイプオルガンの音色です。

デモ演奏を聴いてみましょう

ヤマハ・デジタルピアノには、デモ演奏が各音色について1曲ずつ内蔵されており、いつでも自由に聴くことができます。

1

デモ演奏の選曲状態に入る



デモ (DEMO) ボタンを押します。

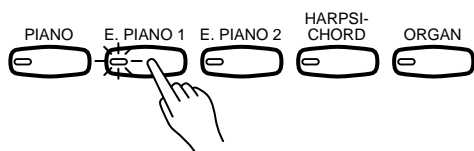
「音色ボタンのランプが順に点滅し、デモ演奏の選曲待ち状態になります。

2

曲をスタートさせる

デモ演奏を聴きたい音色ボタンを押します。

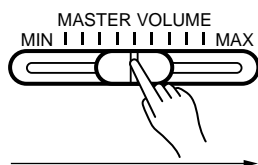
「押したボタンのランプが点滅し、その音色に応じたデモ演奏がスタートします。その後、ストップさせるまで音色ボタンの順番に連続演奏されます。



- ・デモ演奏中、別の音色ボタンを押すと、そのデモ曲に切り換わります。
- ・デモ演奏中の音色ボタンをもう一度押すと、デモ演奏はストップして再び選曲待ちの状態に戻ります。

3

音量調節



大きくなる


ボリューム (MASTER VOLUME) で音量を調節します。

4

デモ演奏状態から抜ける


デモボタンを押します。

「デモ演奏状態から抜け、通常の状態に戻ります。

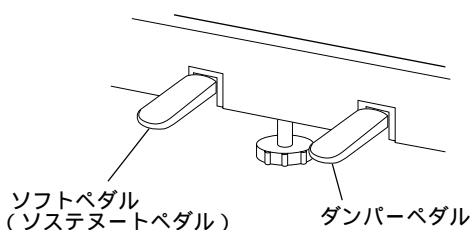
 補足 ・デモ演奏のテンポは変更できません。

デモ曲一覧表

音色	曲名	作曲者
ピアノ (PIANO)	ピアノソナタK.V.331第3楽章「トルコ行進曲」	モーツァルト
エレクトリックピアノ1 (E.PIANO 1)	「なき王女のためのパヴァーヌ」	ラベル
エレクトリックピアノ2 (E.PIANO 2)	オリジナル	
ハープシコード (HARPSICHORD)	「調子のよい鍛冶屋」	ヘンデル
オルガン (ORGAN)	「結婚行進曲」	メンデルスゾーン

 補足 ・デモ演奏は、1曲すべてでなく部分的に抜粋しているものもあります。

ペダル効果



ヤマハ・デジタルピアノのスタンド部分には2つのペダルがついています。左側のソフトペダルは切り換えて、ソステヌートペダルにすることもできます。各ペダルの効果をうまく使い分けましょう。

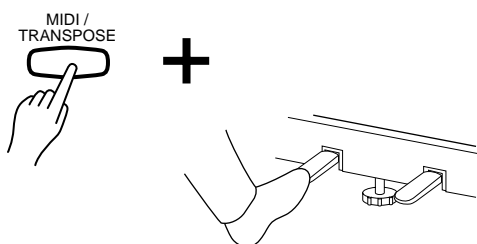
1

ダンパーペダル

アコースティックピアノを演奏する際に最もよく使うペダルです。ペダルを踏むと、すべての音に余韻がかかります。

2

ソフト/ソステヌートの選択



MIDI/トランスポーズ(MIDI/TRANSPOSE)ボタンを押しながら、ソフトペダルを踏むと、ソステヌートペダルになります。もう一度同じ操作をすると、ソフトペダルに戻ります。

3


ソフトペダル

音量がわずかに下がると同時に、音の響きが柔らかくなります。音の響きを柔らかくしたいところで使うと効果的です。

4

ソステヌートペダル

ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけに余韻が付きます(ソステヌート効果)。ペダルを踏んだ後に弾いた音には、余韻は付きません。低音部の音だけを響かせながら、右手でメロディを弾くときなどに使用します。ソステヌート効果は、ドビュッシーの「月の光」などに使われています。

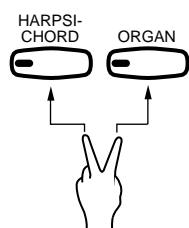
 **補足** ・ソフト/ソステヌートの選択は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時にはソフトペダルに戻ります。

デュアル機能

2つの音色を選んで、重ねて演奏することができます。

1

デュアル状態に入る

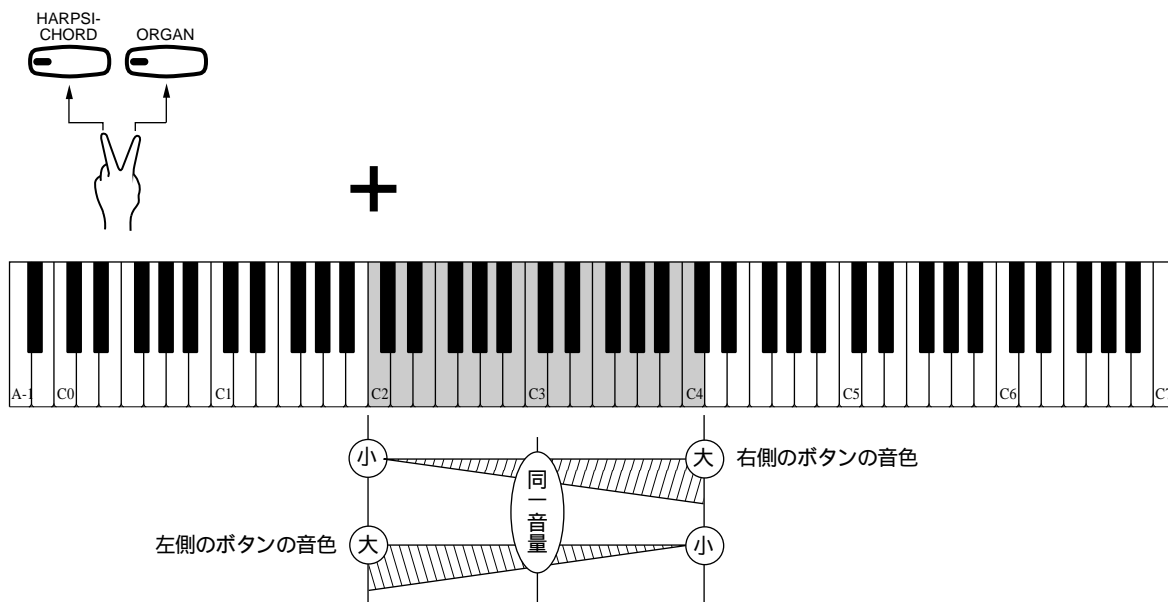


組み合わせたい2つの音色ボタンを同時に押します。「ランプが点灯します。」

2

音量バランスの設定

組み合わせた2つの音色ボタンを押しながら、C2～C4の鍵盤を押すことで、2つの音色の音量バランスを設定できます。



3

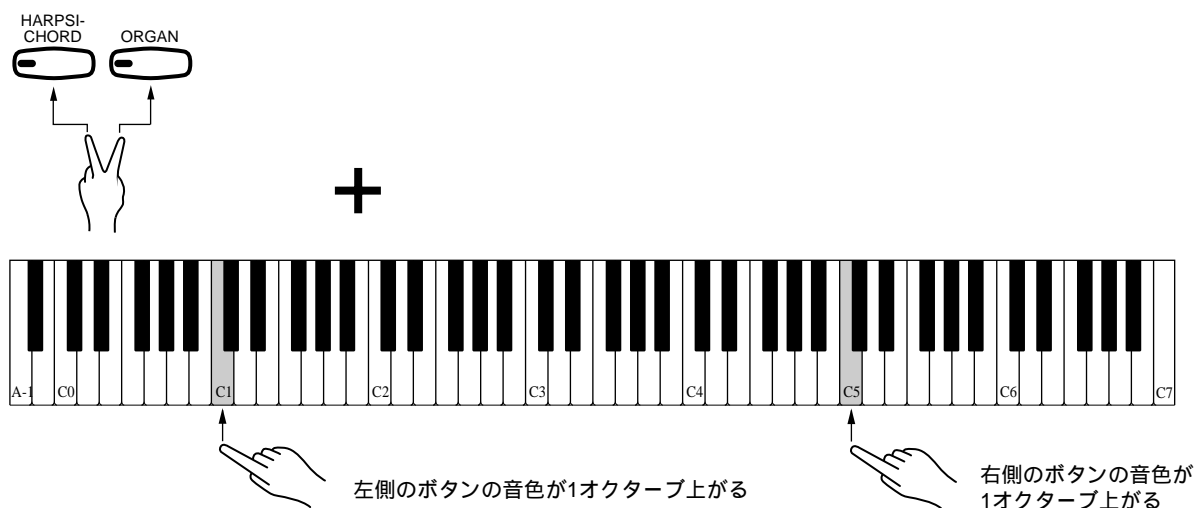
片方を1オクターブ上げる設定

組み合わせた2つの音色ボタンを押しながら、

C5の鍵盤を押すと ... 右側に配置されているボタンの音色が、1オクターブ上がります。

C1の鍵盤を押すと ... 左側に配置されているボタンの音色が、1オクターブ上がります。


- ・いずれの場合も、もう一度同じ操作をすると、元の音程に戻ります。
- ・設定した音量バランスとオクターブの切り換えは、電源をオフにするまで記憶されます。



補足

- ・設定は電源をオフにするまで記憶されます。
- ・オクターブの切り換えは、音色の組み合わせごとに設定できます。電源オン時には、すべて同一オクターブになっています。

デュアル機能

-  **補足** ・音量バランスの設定は、音色の組み合わせごとに設定できます。電源オン時には、下表の鍵盤を押して設定したバランスになっています。

	オルガン	ハーブシコード	エレクトリックピアノ2	エレクトリックピアノ1
ピアノ	E2	C3	C3	C3
エレクトリックピアノ1	F2	C3	C3	
エレクトリックピアノ2	E2	C3		
ハーブシコード	G2			

C2 : 左側音色最大音量 / 右側音色最小音量
 ……
 C3 : 同一音量
 ……
 C4 : 左側音色最小音量 / 右側音色最大音量

メトロノーム機能

正確なテンポで演奏したいときは、ヤマハ・デジタルピアノのメトロノームをお使いください。

1 メトロノームをスタートさせる



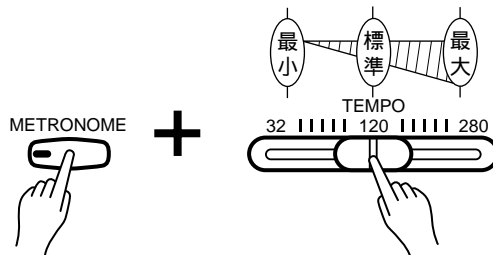
メトロノーム(METRONOME)ボタンを押します。

「メトロノームボタンのランプが点灯し、メトロノームがスタートします。」

- ・録音した曲の再生中に押すと、再生のタイミングに合わせて、メトロノームが鳴ります。

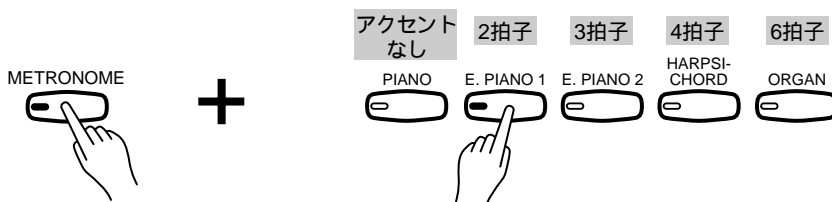
2 メトロノームの音量調節

メトロノームボタンを押しながら、テンポ(TEMPO)スライダーを動かすことで、メトロノームの音量を調節できます。



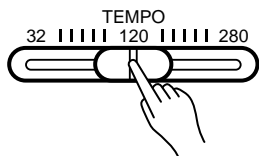
3 拍子の設定

メトロノームボタンを押しながら、音色ボタンを押すことで、メトロノームの拍子を設定できます。音色ボタンには、次のように拍子が割り当てられています。



4

テンポの調節



テンポスライダーを動かすことで、メトロノームの速さ（1分間の拍数）を32～280の範囲で調節できます。

5

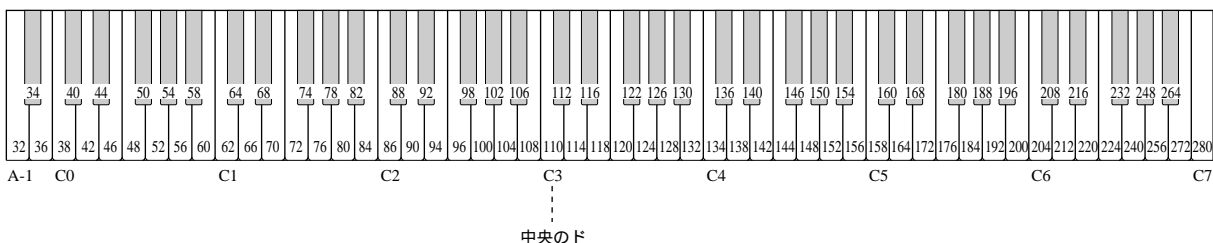
メトロノームを止める



メトロノームボタンを押します。

「メトロノームボタンのランプが消灯して、メトロノームが止まります。」

- 補足**
- 録音した曲を再生させながらメトロノームを鳴らしているとき、レコーダーのプレイ(PLAY)ボタンを押して再生をストップさせると、メトロノームも止まります。
 - 電源オン時には、メトロノームの音量は標準、拍子は「アクセントなし」になっています。
 - メトロノームボタンを押しながら鍵盤を押すことで、テンポを下記のように正確に設定することができます。



鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ
A -1	32	A 0	56	A 1	80	A 2	104	A 3	128	A 4	152	A 5	192	A 6	256
A#-1	34	A#0	58	A#1	82	A#2	106	A#3	130	A#4	154	A#5	196	A#6	264
B -1	36	B 0	60	B 1	84	B 2	108	B 3	132	B 4	156	B 5	200	B 6	272
C 0	38	C 1	62	C 2	86	C 3	110	C 4	134	C 5	158	C 6	204	C 7	280
C#0	40	C#1	64	C#2	88	C#3	112	C#4	136	C#5	160	C#6	208		
D 0	42	D 1	66	D 2	90	D 3	114	D 4	138	D 5	164	D 6	212		
D#0	44	D#1	68	D#2	92	D#3	116	D#4	140	D#5	168	D#6	216		
E 0	46	E 1	70	E 2	94	E 3	118	E 4	142	E 5	172	E 6	220		
F 0	48	F 1	72	F 2	96	F 3	120	F 4	144	F 5	176	F 6	224		
F#0	50	F#1	74	F#2	98	F#3	122	F#4	146	F#5	180	F#6	232		
G 0	52	G 1	76	G 2	100	G 3	124	G 4	148	G 5	184	G 6	240		
G#0	54	G#1	78	G#2	102	G#3	126	G#4	150	G#5	188	G#6	248		

録音

ヤマハ・デジタルピアノにはレコーダーがあり、自分の演奏を1曲録音することができます。

1

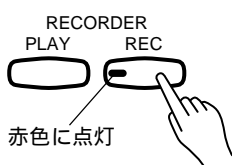
音色を選ぶ

録音したい音色のボタンを押します。

- ・録音中に音色を切り換えると、その操作も記録され、再生時に同じタイミングで音色が切り換わります。

2

録音待機状態にする



レコード(REC)ボタンを押します。

「レコードボタンのランプが赤色に点灯し、録音待機状態になります。

- ・録音を中止するときには、もう一度レコードボタンを押します。

3

メトロノームを鳴らす場合

メトロノームボタンを押します。

- ・メトロノームのテンポや音量を調節したり、拍子を設定することができます(10ページ参照)。
- ・メトロノームの音は録音されません。

4

録音を始める

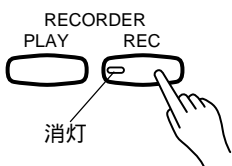
演奏を始めます。

「鍵盤を押した時点から録音が始まります。

- ・曲のはじめに何拍かの無演奏部分が必要なときは、プレイ(PLAY)ボタンを押します。録音が始まりますので、必要な拍数だけ待ってから演奏を始めます。

5

録音を終わる



レコードボタンまたはプレイボタンを押します。

「レコードボタンのランプは消灯し、再生待機状態になります。

補足

- ・録音は音符やペダル操作だけでなく、デュアル音色の組み合わせなど次ページの表の内容が記録されます。演奏を始めるまで(手順3以前)に操作した音色選択などの情報は、その曲の初期値として記録されます。初期値は、あとで変更できます(次ページ参照)。
- ・最大約1,300音符記録できますが、機能をたくさん使うと減ります。また、録音の途中でも記憶残容量がなくなると、レコードボタンのランプが点滅し、録音が終了します(終了した時点までの演奏は記録されます)。
- ・録音した曲は、電源をオフにするまで記憶されます。電源をオフにすると消えてしまいますが、ヤマハ・デジタルピアノにディスクオーケストラユニット DOU-10などを接続して演奏データを送信すると、曲を保存することができます(20ページ参照)。

記録内容について

データ	初期値	録音中	録音後の初期値変更	操作
押鍵情報	×		×	押鍵
音色				音色ボタン
デュアル音色				音色ボタン + 音色ボタン
デュアルバランス/オクターブの切り換え				音色ボタン + 音色ボタン + 鍵盤C2~C4 / C1,C5
ダンパーペダル				ダンパーペダル
ソフトペダル				ソフトペダル
ソステヌートペダル	×		×	ソステヌートペダル (ソフトペダルから切り換え時)
テンポ		×		テンポスライダー

初期値の変更

録音が終わったあとで、録音した曲の初期値を変更することができます。変更できる内容は、上表をご覧ください。

レコードボタンを押します。

「レコードボタンのランプが赤色に点灯して、録音待機状態になります。

パネルを操作して初期値を変更します。

レコードボタンを押します。

- ・ 誤ってプレイボタンや鍵盤を押さないでください。プレイボタンや鍵盤を押すと録音が始まってしまう、録音済みの曲が消えてしまいます。

「レコードボタンのランプが消灯します。

- ・ たとえば、録音したピアノの音色をエレクトリックピアノ1に変更したいときは、レコードボタンを押して録音待機状態にし、次にエレクトリックピアノ1の音色ボタンを押し、再びレコードボタンを押します。これで音色がエレクトリックピアノ1に変更されます。

録音した曲の削除

レコードボタンを押して録音待機状態にします。

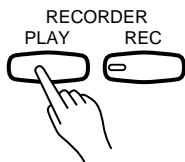
プレイボタンを2回押します(プレイボタンを押して録音を開始し、何もしないでもう一度プレイボタンを押して録音を終了させます)。

再生

録音した曲を再生させてみましょう。

1

再生を始める



プレイ(PLAY)ボタンを押します。

「再生が始まります。

- ・再生音に合わせて、演奏することができます。

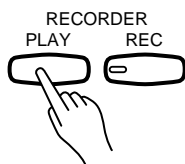
2

音量を調節する

ボリュームで音量を調節します。

3

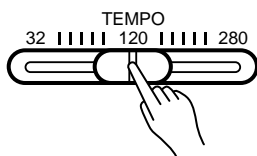
再生を終わる



もう一度プレイボタンを押します。

- ・曲の最後まで再生させたときは、プレイボタンを押さなくても再生が終わります。

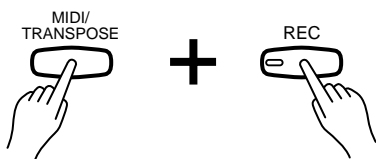
テンポを変える



再生中にテンポスライダーを動かすことで、テンポを変更することができます。

- ・メトロノームボタンを押しながら鍵盤を押すことで、テンポを正確に変更することもできます(11ページ参照)。

曲の早送り



再生中にMIDI/トランスポーズボタンを押しながらレコードボタンを押すことで、早送りができます。

「早送り音が聴こえます。

- ・操作をやめたところから、通常の再生音に戻ります。

 補足 ・再生データはMIDI OUT端子からは出力されません。

トランスポーズ(移調)機能

押さえる鍵盤を変えずに、歌う人の声や他の楽器の高さに、キー(調)を合わせることができます。(つまり、弾く鍵盤の位置と発音される音の高さをずらすことができます。)

・ -6~+6半音の範囲でずらすことができます。「ド」の音なら低い方に最大で「ファ#」(半オクターブ下)まで、高い方も最大で「ファ#」(半オクターブ上)までずらすことができます。

たとえば、+5半音ずらす(完全4度上げる)と、下の楽譜Aを弾くと、楽譜Bのように鳴ります。



移調量の設定

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、F#2~F#3の鍵盤を押すことで、移調量を設定できます。

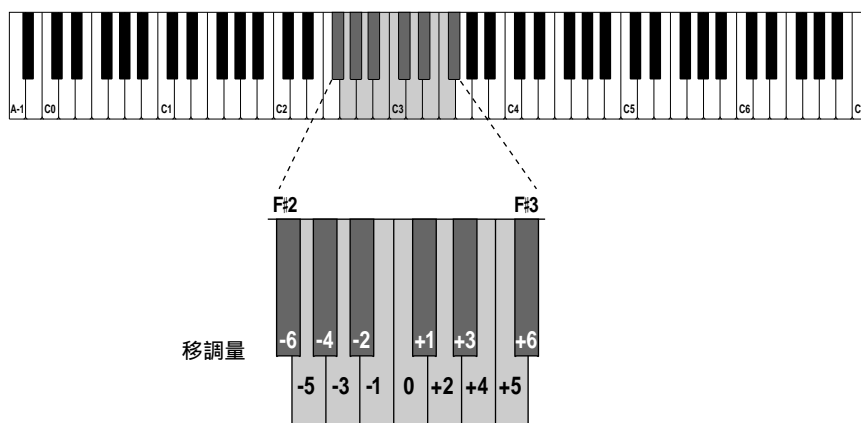
F#2の鍵盤 ... -6半音に設定されます。

C3の鍵盤 ... 標準状態(0)です。

F#3の鍵盤 ... +6半音に設定されます。



+



補足

- ・ 設定は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時には標準状態(0)に戻ります。
- ・ 移調によって、A-1より低くなった音は1オクターブ上の音で、C7より高くなった音は1オクターブ下の音で鳴ります。

ピッチコントロール機能

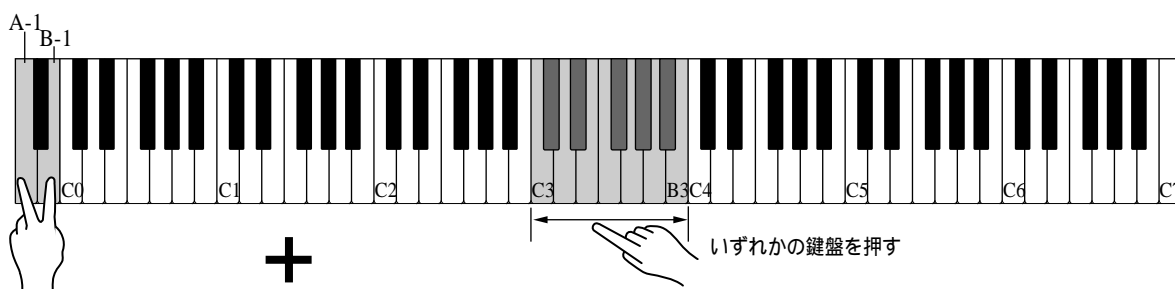
合奏のときなどに、音程(ピッチ)を正確に合わせるための機能です。他の楽器と微妙に音程が異なる場合は、この機能を使って音の高さを合わせます。

- ・約-50セント～約+50セントの範囲で、約1.6セントきざみの設定ができます(100セント=半音)。

1

音程を上げる

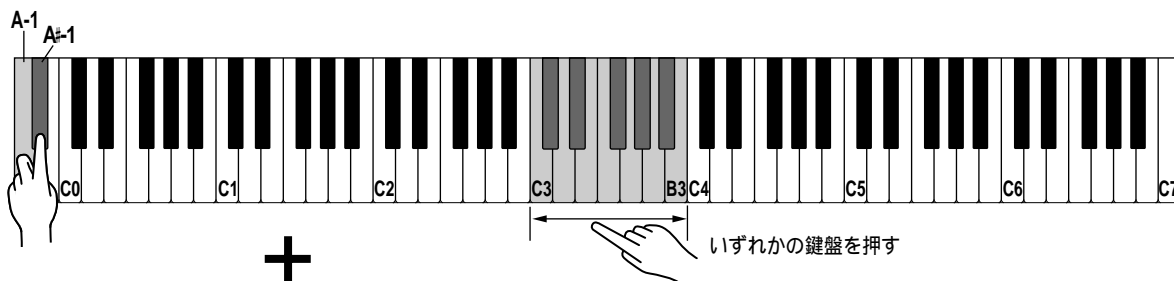
A-1とB-1の鍵盤(左端の白鍵2つ)を同時に押しながら、C3～B3のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに1きざみずつ音程が上がります。音を聴きながらきざみに音程を上げて、他の楽器と合わせてください。



2

音程を下げる

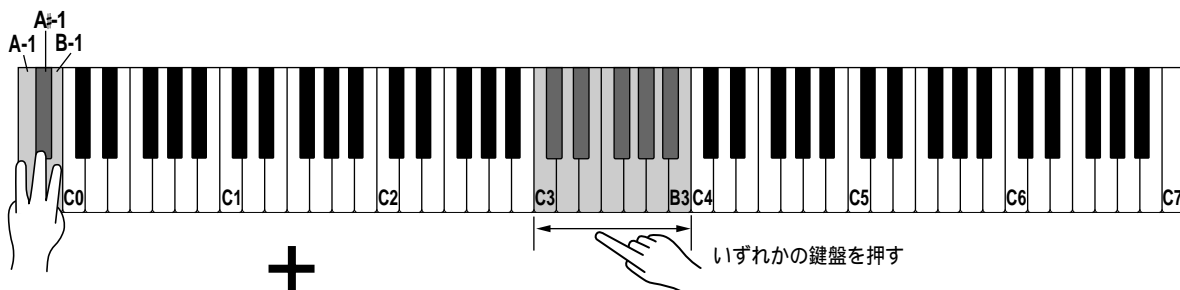
A-1とA#-1の鍵盤(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押しながら、C3～B3のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに1きざみずつ音程が下がります。音を聴きながらきざみに音程を下げて、他の楽器と合わせてください。



3

標準状態に戻すとき

A-1とA#-1とB-1の鍵盤(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押しながら、C3～B3のいずれかの鍵盤を押します。



補足

- ・設定は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時には、標準状態(A3 = 440Hz)に戻ります。
- ・MIDIのローカルコントロールがオフ(19ページ参照)のときは、ピッチコントロールの設定はできません。

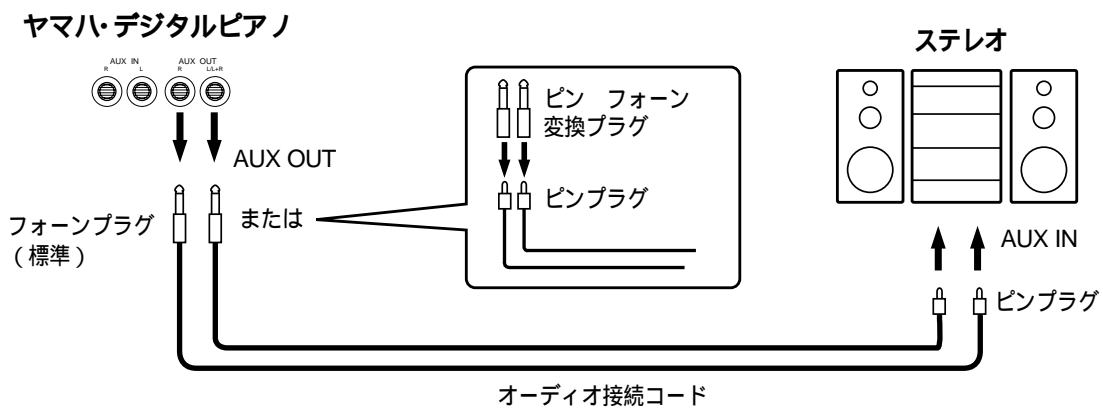
他の機器と接続する

リアパネルの付属端子を使って、各機器と接続できます。なお、MIDI端子については次ページをご覧ください。

AUX出力端子を使う

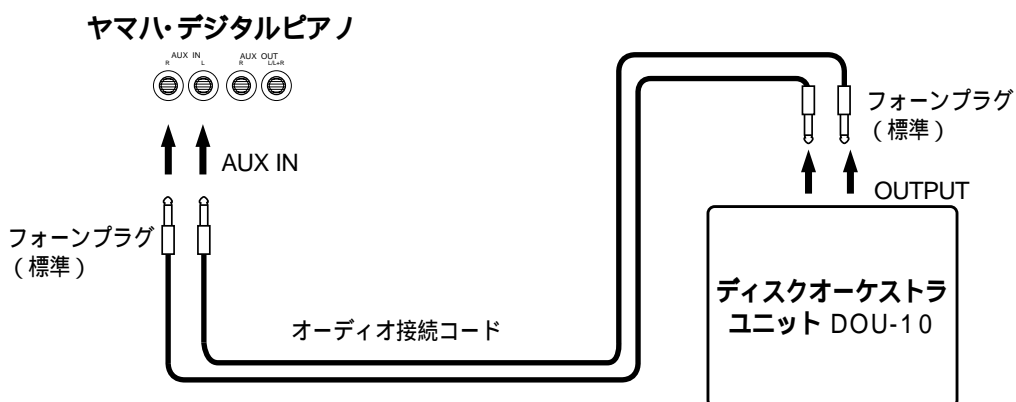
オーディオ接続コードを使って図のように接続すると、ステレオなどからより大きな音を出したり、演奏を録音できます。

ステレオに接続したときは、ヤマハ・デジタルピアノのボリューム(MASTER VOLUME)を半分くらいにして、ステレオのボリュームで音量調節してください。



AUX入力端子を使う

オーディオ接続コードを使って図のように接続すると、DOU-10など他の楽器や機器の音をヤマハ・デジタルピアノのスピーカーから出すことができます。



補足

- ・ AUX入力端子から入力した外部機器の音も、ヤマハ・デジタルピアノの音といっしょに本体スピーカーとAUX出力端子から出力されますが、ヤマハ・デジタルピアノの音量調節は効きません。
- ・ AUX出力端子から出力した音を、AUX入力端子に戻さないでください。
- ・ オーディオ接続コードおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

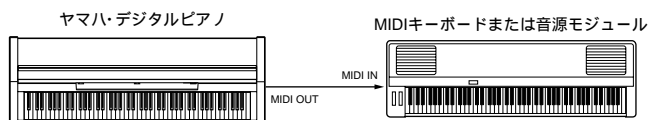
MIDIとは

MIDI（ミディ）とは、「Musical Instrument Digital Interface」の略で、世界の主な楽器メーカー間での話し合いにより決められた世界統一の規格です。MIDIはデジタル信号なので、1本のMIDIケーブル上で演奏情報をはじめいろいろな情報を同時に扱うことができます。このMIDIを使うことによって、あるMIDI楽器から別のMIDI楽器を自由自在にコントロールすることができます。

MIDIを使ってできること

他のMIDIキーボードとつなぐ

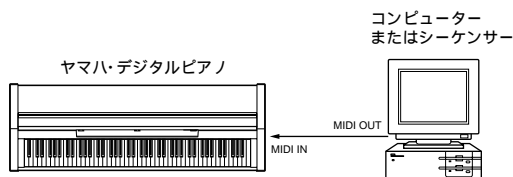
図のようにヤマハ・デジタルピアノのMIDI OUTと、他のMIDIキーボードまたは音源モジュールのMIDI INをつないで、ヤマハ・デジタルピアノを演奏すると、まったく違う音色によるユニゾンで鳴らすことができます。逆に他のMIDIキーボードのMIDI OUTとヤマハ・デジタルピアノのMIDI INをつなぐことによって、他のMIDIキーボードからヤマハ・デジタルピアノをコントロールすることもできます。



注意：他のMIDI機器と接続して鳴らす場合は、次ページの方法でMIDIチャンネルを合わせる必要があります。

コンピューターやシーケンサーの音源として使う

コンピューターやシーケンサーの自動演奏の音源として、ヤマハ・デジタルピアノを使うことができます。20ページのマルチティンバー機能を使うことによって、内蔵されている複数の音色を同時に鳴らすことができます。



注意：コンピューターを使う場合は、シーケンスソフトとMIDIインターフェースが必要です。

MIDIシステムのセットアップ

MIDIを利用するには、専用のMIDIケーブルを使って正しくMIDI端子を接続する必要があります。

MIDI端子

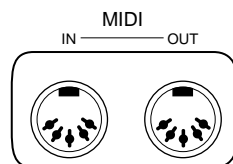
ヤマハ・デジタルピアノのMIDI端子には以下の2種類があります。また、他のMIDI楽器には、これ以外にMIDI THRU（スルー）という端子がついていることがあります。

MIDI IN（イン）

MIDI情報を受け取るための端子です。

MIDI OUT（アウト）

MIDI情報を出すための端子です。



情報を送り出す機器のMIDI OUT（またはTHRU端子）と、情報を受け取る機器のMIDI IN端子を、MIDIケーブルで結線します。

MIDIケーブル

電子楽器を扱っている楽器店で購入することができます。30cmから15mくらいまで、用途に応じていろいろな長さのものがあります。

注意：MIDI機器は、それぞれ機種ごとに扱えるMIDIデータの内容が異なる場合があります。接続しているMIDI機器間で共通の機能だけコントロールすることができます。

注意：この共通の機能を調べるには、MIDIインプリメンテーション・チャート（23ページ参照）を使います。

MIDI機能の設定

MIDIを利用するときには、目的に応じて設定しておかなければならない項目がいくつかあります。

MIDIチャンネルを合わせる (MIDI送信/受信チャンネルの設定)

MIDIデータは一部を除いて、1~16のチャンネルを持っています。

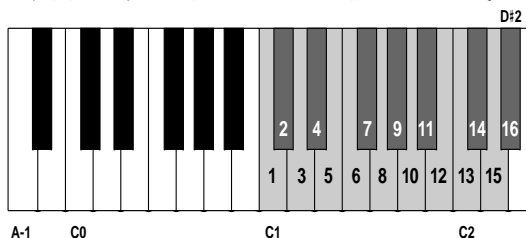
MIDIデータを扱う場合、送信側と受信側でこのMIDIチャンネルを合わせておく必要があります。

送信側からMIDIデータが送られてくると、受信側で設定されているチャンネルと一致するものだけを受け付け、異なるチャンネルのデータは無視するようになっています。

また、特別にオムニ・オン(OMNI ON)という状態があります。これはMIDIチャンネルに関係なく、受信したMIDIデータをすべて受け付ける状態です。

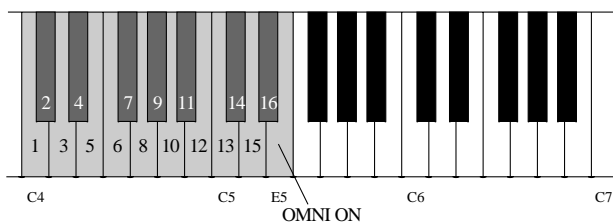
MIDI送信チャンネルの設定

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、C1~D#2の鍵盤を押すと、図のように送信チャンネルが設定されます。



MIDI受信チャンネルの設定

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、C4~E5の鍵盤を押すと、図のように受信チャンネルが設定されます。

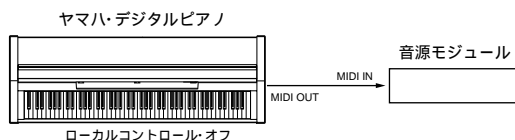


- 電源をオンにしたときは、送信チャンネル=1、受信チャンネル=オムニ・オンに設定されます。

ヤマハ・デジタルピアノの鍵盤と音源の機能を切り離して使う

(ローカルコントロール・オフ)

ヤマハ・デジタルピアノをはじめシンセサイザーなどでも、鍵盤を弾いて、内蔵されている音源で音を出すのが普通です。ところが、ローカルコントロールをオフにすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもヤマハ・デジタルピアノからは音が出なくなります。一方、演奏情報はMIDI OUT端子から出力されますので、ヤマハ・デジタルピアノ本体を鳴らさずにMIDIで他の音源をコントロールしたいときに、オフにしてください。



MIDI/トランスポートボタンを押しながら、ピアノ(PIANO)ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

「 操作中は、ローカルコントロール=オフでピアノボタンのランプが点灯、ローカルコントロール=オンで消灯します。

- 電源をオンにしたときは、ローカルコントロール=オンに設定されます。

MIDIによる音色ナンバーの変更 (プログラムチェンジ)

MIDIを使って送信側の機器から受信側の機器の音色ナンバーを切り換えることができます。これをプログラムチェンジといいます。

いろいろなMIDIシステムを組んでいくと、このプログラムチェンジのデータの送受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合とがあります。

プログラムチェンジをオフにすると、プログラムチェンジの情報を送受信しなくなります。

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、エレクトリックピアノ1(E. PIANO 1)ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

「 操作中は、プログラムチェンジ=オフでエレクトリックピアノ1ボタンのランプが点灯、プログラムチェンジ=オンで消灯します。

- 電源をオンにしたときは、プログラムチェンジ=オンに設定されます。

コントロールチェンジについて

MIDIではペダルやボリュームなど、いろいろなデータの送受信も行えます。これらはコントロールチェンジとしてまとめて扱われます。

コントロールチェンジをオフにすると、コントロールチェンジの情報を送受信しなくなります。

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、エレクトリックピアノ2(E. PIANO 2)ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

「 操作中は、コントロールチェンジ=オフでエレクトリックピアノ2ボタンのランプが点灯、コントロールチェンジ=オンで消灯します。

- ヤマハ・デジタルピアノがコントロールチェンジとして扱う情報は、21ページに詳しくまとめてあります。
- 電源をオンにしたときは、コントロールチェンジ=オンに設定されます。

ヤマハ・デジタルピアノをシーケンサーのマルチ音源として使う (マルチティンバー機能)

ヤマハ・デジタルピアノに内蔵されている音色を、シーケンサーやコンピューターのマルチ音源として使うことができます。

シーケンサーからパートごとにプログラムチェンジで音色を指定して鳴らすことによって、オーケストレーションを楽しむことができます。

マルチティンバー機能をオンにすると、マルチ音源として使うことができるようになります。

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、ハーブシコード (HARPSICORD) ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

「 操作中は、マルチティンバー機能 = オンでハーブシコードボタンのランプが点灯、マルチティンバー機能 = オフで消灯します。

- ・ 電源をオンにしたときは、マルチティンバー機能 = オフに設定されます。

低音部を外部音源で鳴らす (MIDIスプリット&レフトローカル・オフ)

鍵盤を好きな位置で低音部と高音部に分け、低音部の音をヤマハ・デジタルピアノでは鳴らないよう(MIDIスプリット&レフトローカル・オフ)にする機能です。音源モジュールなどのMIDI機器を接続すると、低音部は外部音源で、高音部はヤマハ・デジタルピアノの音源で鳴らすことができます。

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、オルガン (ORGAN) ボタンを押すごとに、MIDIスプリット&レフトローカル・オフと通常の状態が切り換わります。

「 操作中は、MIDIスプリット&レフトローカル・オフでオルガンボタンのランプが点滅、通常の状態で消灯します。

MIDI/トランスポートボタンを押ししたまま、境にしたい鍵盤を押します。

「 操作中は、MIDIスプリット&レフトローカル・オフでオルガンボタンのランプが点灯、通常の状態で消灯します。

- ・ MIDIスプリット&レフトローカル・オフのときは、低音部はチャンネル2で送信、高音部は送信チャンネルで送信されます。
- ・ 電源をオンにしたときは、通常の状態に設定されます。
- ・ 境にした鍵盤は、常に低音部に含まれます。電源をオンにしたときは、境の鍵盤はF#2に設定されます。

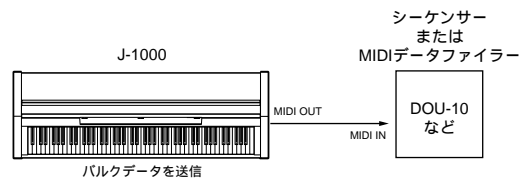
録音した曲を外部機器に保存する (録音したデータのバルク送信)

J-1000のレコーダーに録音したデータを、MIDIのバルクデータとして送信し、ディスクオーケストラユニットDOU-10やシーケンサー、MIDIデータファイラーなどに保存したり、もう一台のJ-1000にデータを移すことができます。

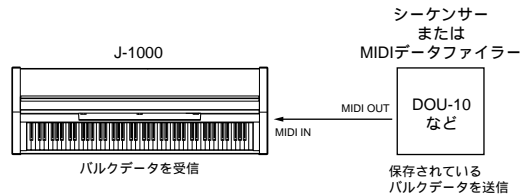
- ・ バルクデータとは、MIDIでデータの種類を表す用語で「データのかたまり」といった意味です。

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、プレイ (PLAY) ボタンを押します。

「 MIDI OUTから、バルクデータが送信されます。



- ・ 保存したバルクデータを受信する場合は、データが保存されている機器のMIDI OUTと、J-1000のMIDI INを接続します。保存されている側から送信が行われると、自動的にJ-1000が受信し、J-1000本体のレコーダーにデータが入ります。このあと通常の再生の手順で再生できます。

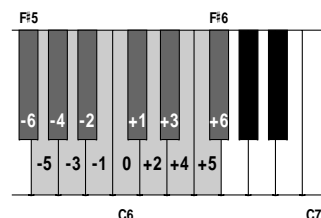


- ・ メトロノームがオンのときと、レコーダーの録音/再生中は、送信も受信もできません。
- ・ バルクデータの送受信の操作については、保存する機器の取扱説明書もご覧ください。

トランスポーズ(移調)して外部音源を鳴らす(MIDIトランスポーズ)

ヤマハ・デジタルピアノで外部の音源を鳴らす場合に、送信するMIDIデータをトランスポーズすることによって、外部音源の演奏だけ移調させることができます。

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、F#5 ~ F#6の鍵盤を押すと、図のように移調量が設定されます。



- ・ 電源をオンにしたときは、移調量 = 0 (標準の音程) に設定されます。

MIDIデータフォーマット

1. ノートオン/オフ

[9nH] [kk] [vv]

9nH = ノートオン/オフ情報 (n = チャンネルNo.)

kk = ノートNo. (送信 : 15 ~ 114 = D#1 ~ F#7)
(受信 : 21 ~ 108 = A-1 ~ C7)

vv = ベロシティ (ノート・オン = 01H ~ 7FH, ノート・オフ = 0)

[8nH] [kk] [vv]

8nH = ノート・オフ情報 (n = チャンネルNo.)

kk = ノートNo. (送信 : 15 ~ 114 = D#1 ~ F#7)
(受信 : 21 ~ 108 = A-1 ~ C7)

vv = ベロシティ (ノート・オフ = 00H ~ 7FH)

ノート・オフの8nHは受信のみ、送信は9nH (vv = 00H)で行います。

2. コントロールチェンジ

[BnH] [cc] [vv]

BnH = コントロール情報 (n = チャンネルNo.)

cc = コントロールNo.

vv = コントロール値

cc コントロール 値(vv)

07H ボリューム(受信のみ)

00H : -
6FH : -3dB
7FH : ±0dB

0AH バンポット(受信のみ)

00H ~ 17H : 左6
18H ~ 1FH : 左5
20H ~ 27H : 左4
28H ~ 2FH : 左3
30H ~ 37H : 左2
38H ~ 3FH : 左1
40H ~ 47H : 中央
48H ~ 4FH : スケーリングパン
50H ~ 57H : 右1
58H ~ 5FH : 右2
60H ~ 67H : 右3
68H ~ 6FH : 右4
70H ~ 77H : 右5
78H ~ 7FH : 右6

0BH エクスプレッション(受信のみ)

00H : -
6FH : -3dB
7FH : ±0dB

40H ダンパーペダル 00H ~ 3FH : オフ

40H ~ 7FH : オン

42H ソステヌートペダル

00H ~ 3FH : オフ
40H ~ 7FH : オン

43H ソフトペダル 00H ~ 3FH : オフ

40H ~ 7FH : オン

78H オールサウンド・オフ(受信のみ)

00H

79H リセットオールコントローラー(受信のみ)

00H

7AH ローカルコントロール(受信のみ)

00H : オフ
7FH : オン

7BH オールノート・オフ(受信のみ)

00H

7CH オムニ・オフ/オールノート・オフ(受信のみ)

00H

7DH オムニ・オン/オールノート・オフ(受信のみ)

00H

3. プログラムチェンジ

[CnH] [pp]

CnH = プログラム情報 (n = チャンネルNo.)

pp = プログラムNo.

pp 音色名

00H ピアノ

01H エレクトリックピアノ1

02H エレクトリックピアノ2

03H ハープシコード

04H オルガン

4. システムリアルタイムメッセージ

[rr]

rr コントロール

F8H タイミングロック*1

FAH スタート

FCH ストップ

FEH アクティブセンシング*2

*1 送信時は96分ごとに1回。外部クロック時の受信は、テンポの96分のタイミングとして受信します。

*2 送信時は約200msecごとに1回。受信時は、400msec以上受信しないと発音が停止します。

オーバーラン・フラミングエラーが起こったときは、すべてのチャンネルのダンパー、ソステヌート、ソフトペダルをオフにし、オールノート・オフにします。

5. システムエクスクルーシブメッセージ

ヤマハMIDIフォーマット

[F0H] [43H] [XnH] [ff].....[F7H]

43H : ヤマハID

Xn : サブステータス + チャンネルNo.

ff : フォーマットNo.

X ff 機能

0 7CH パネルデータ受信

2 7CH パネルデータ・バルクダンプリクエスト

2 7DH 機種IDコード・バルクダンプリクエスト

nはオムニ・オン/オフにかかわらず、受信チャンネルに指定されたチャンネルが有効です。

パネルデータフォーマット

F0H, 43H, 0nH, 7CH, 00H, 1BH (n = チャンネルNo.)

53H, 4BH, 20H, 20H

43H, 4CH, 50H, 27H, 39H, 34H

3xH, 3yH (x, y = バージョンNo.)

[パネルデータ]

[チェックサム(1バイト)] = 0 - (53H + 4BH + 20H + + データエン
ド)

F7H

パネルデータ項目

音色番号

デュアル音色

デュアルオン/オフ

デュアルバランス

0

0

0

0

0

0

MIDIデータフォーマット

ソフト/ソステヌート

スプリットポイント

0

テンポ(絶対値 下位バイト)

テンポ(絶対値 上位バイト)

シーケンスデータフォーマット

F0H, 43H, 73H

38H (機種ID)

06H (パルクID)

02H (パルクNo.)

03H, 0FH, 0AH, 02H (データ長)

[パネルデータ] (シーケンスデータ)

[チェックサム(1バイト)]=0 - sum(パルクデータ)

F7H

機種IDコード送信フォーマット

F0H, 43H, 0nH, 7DH, 00H, 10H (n=チャンネルNo.)

53H, 4BH, 20H, 20H [] 機種ID

43H, 4CH, 50H, 27H, 39H, 34H [] 機種ID

3xH, 3yH, 20H, 20H, 20H, 20H (x, y=バージョンNo.)

[チェックサム(1バイト)]=0 - (53H + 4BH + 20H + + 20H)

F7H

J-1000 MIDIフォーマット

[F0H] [43H] [73H] [38H] [yy] [F7H]

43H : ヤマハID

73H : [] 機種ID*1

38H : [] 機種ID*1

yy : サブステータス

yy 機能

02H 内部クロック

03H 外部クロック

13H マルチティンバー機能オフ*2

14H DOC音色マルチティンバー機能オン*2

15H マルチティンバー機能オン*2

61H MIDIスタートキャンセル・オン*3

62H MIDIスタートキャンセル・オフ*3

7nH オールノート・オフ、受信チャンネル=n+1、オムニ・オフ

*1 yy=2, 3, 13, 14, 15, 7nのときは、機種ID(73H, 38H)の代わりに、ヤマハ・デジタルピアノ共通ID(73H, 01H)を受信した場合も受け付けます。

*2 [13H] [14H] [15H]を受信すると、すべてのコントロールチェンジをリセットします。また[14H] [15H]を受信したときは、いつも同じ初期設定になるように音色などもリセットします。

*3 [61H]を受信すると、スタート(FAH)を受信してもスタートしません。また、ストップ(FCH)やタイミングクロック(F8H)には影響を与えません。

[62H]はこの機能のキャンセルに使用します。

特殊コントロール

[F0H] [43H] [73H] [38H] [11H] [0nH] [cc] [vv] [F7H]

43H : ヤマハID

73H : [] 機種ID*1

38H : [] 機種ID*1

11H : 特殊コントロール

0nH : コントロールMIDIチェンジ+チャンネルNo.

cc : コントロールNo.

vv : 値

cc コントロール 値(vv)

08H デュアルバランス 00H : 左側音色最大

7FH : 右側音色最大

1BH メトロノーム・オン/オフ(受信のみ)

00H : オフ

01H : オン

5AH デュアル・オン/オフ 00H : デュアル・オフ

01H : デュアル・オン

(ノーマル)

02H : デュアル・オン(左側

音色1オクターブ上)

03H : デュアル・オン(右側

音色1オクターブ上)

5CH デュアルボイス vv : デュアルボイス音色

アブソリュート・テンポ

[F0H] [43H] [73H] [38H] [11H] [1nH] [cc] [dd] [F7H]

43H : ヤマハID

73H : [] 機種ID*1

38H : [] 機種ID*1

11H : 特殊コントロール

1nH : コントロールMIDIチェンジ

(送信時: n=コントロール・チャンネルNo.)

(受信時: どのチャンネルNo.でもよい)

cc : アブソリュート・テンポ/L

dd : アブソリュート・テンポ/H

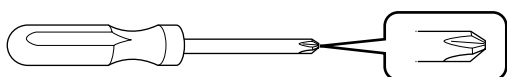
(テンポ=ddH*128+cc)

Function		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default Changed	1 1-16	1 1-16	
Mode	Default Messages	3 x *****	1 OMNI on, OMNI off x	
Note Number :	True voice	22-109 *****	0-127 21-108	
Velocity	Note on Note off	9nH, v=1-127 x 9nH, v=0	v=1-127 x	
After Touch	Key's Ch's	x x	x x	
Pitch Bender		x	x	
Control Change	07 10 11 64 66 67 120 121	x x x x x		Volume Pan pot Expression Damper Sostenuto Soft Pedal All sounds off *1 Reset All Controllers
Program Change	: True #	0-4 *****	0-4 0-4	
System Exclusive				
System Common	: Song Pos : Song Sel : Tune	x x x	x x x	
System Real Time	: Clock : Commands			
Aux Messages	: Local ON/OFF : All Notes OFF : Active Sense : Reset	x x x	(123-125) *1 x	
Notes : *1=receive (120,121,123) if omni off or multi-timbre on				

組み立てかた

- ・ 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ 組み立ては、2人で行うことをお勧めします。
- ・ ネジは付属の指定サイズ以外のは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因となる場合があります。
- ・ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないよう増し締めを行って確実に固定してください。
- ・ 解体するときは、組み立てと逆の手順で行ってください。

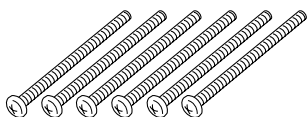
1 + (プラス)のドライバーを用意します。



2 箱を開けて部品を取り出します。そして部品がすべてそろっているか確かめてください。

ネジセット VS31610

長いネジ(金色)×6
(5×40mm)



短いネジ(頭大)×4
(6×18mm)



短いネジ(頭小)×4
(6×16mm)



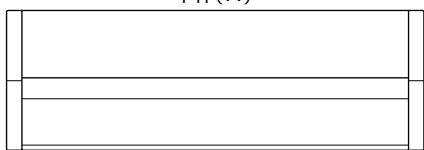
細いネジ(黒色)×2
(4×16mm)



コードクランプ×2



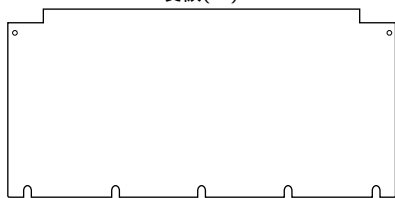
本体(A)



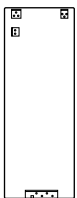
左板(C)



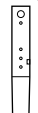
裏板(B)



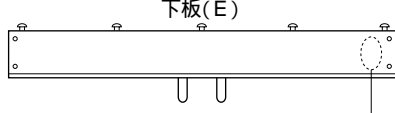
右板(D)



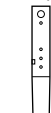
左足(F)



下板(E)

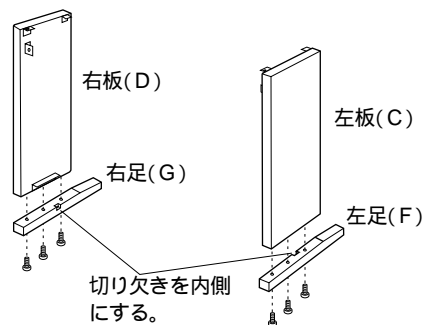


右足(G)



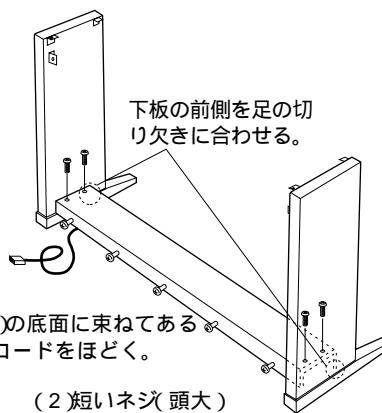
裏側にペダルコードが束ねてあります。

3 右板(D)と右足(G) 左板(C)と左足(F)を固定します。



長いネジ(金色)で固定する。

4 下板(E)を固定します。



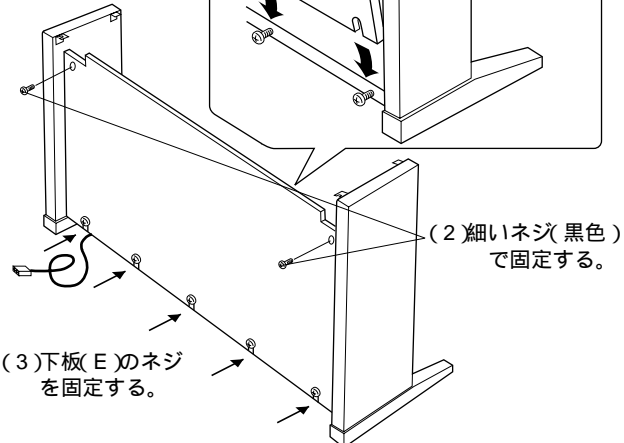
(1) 下板(E)の底面に束ねてあるペダルコードをほどく。

(2) 短いネジ(頭大)で固定する。

5 裏板(B)を固定します。

(1) 裏板(B)を少しなめにしたがら、下板(E)のネジに、裏板下端の切り欠きを引っかける。

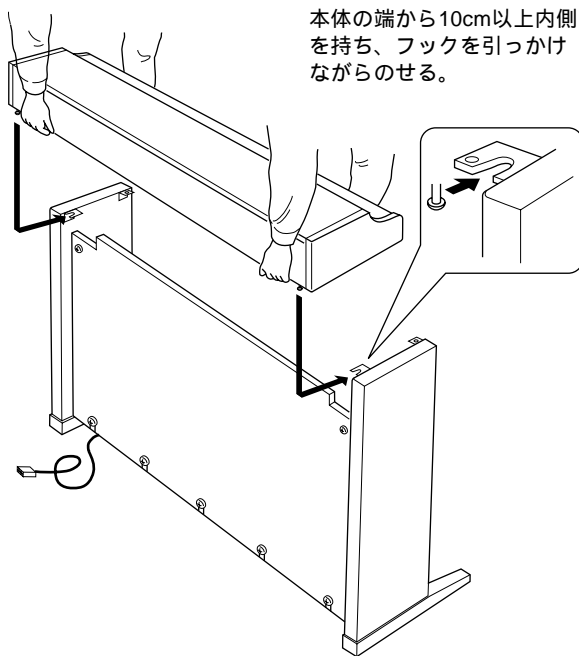
黒い面を外側にする。



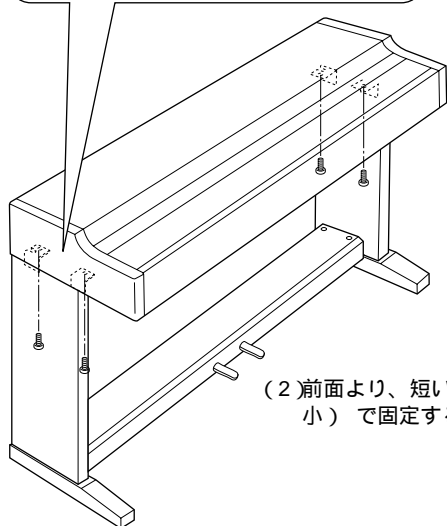
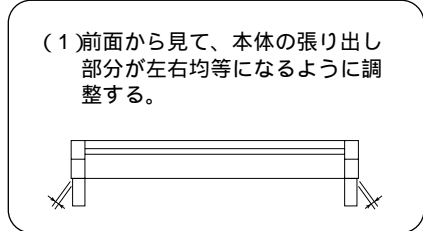
(2) 細いネジ(黒色)で固定する。

(3) 下板(E)のネジを固定する。

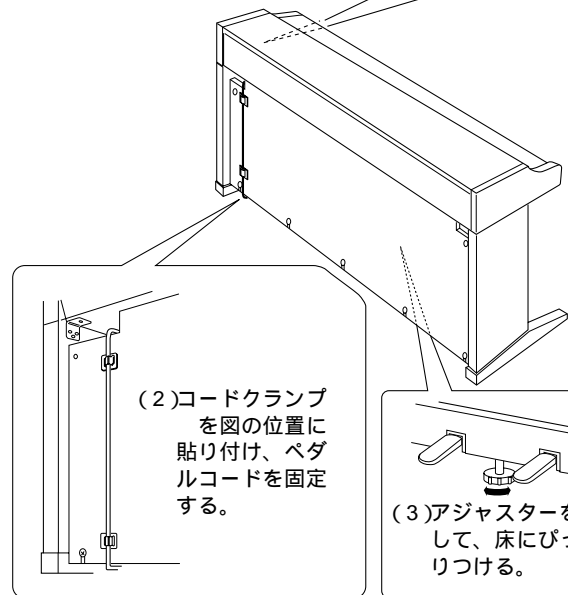
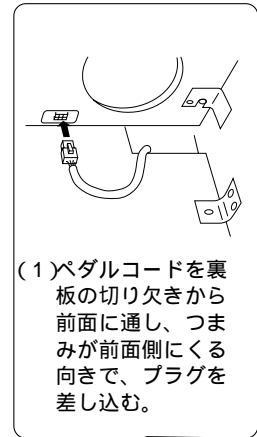
6 本体(A)をのせます。
指をはさまないように十分注意してください。



7 本体(A)を固定します。



8 ペダルコードを接続し、アジャスターを回します。



組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

- 部品が余っていませんか？
組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドア等がヤマハ・デジタルピアノにあたりませんか？
ヤマハ・デジタルピアノを移動してください。
- ヤマハ・デジタルピアノをゆすると、ガタガタしませんか？
ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、下板がガタガタしませんか？
アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横振れする、グラつく等の症状がでたら、組み立て図にしたがって各部のネジを締め直してください。

故障かな？と思ったら

現象	原因	解決法
ヤマハ・デジタルピアノの電源が入らない。	電源プラグがコンセントに差し込まれていません。	電源プラグを家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください。(3ページ参照)
電源(POWER)スイッチを押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチ」と音がする。	電気が流れたためです。	ご心配いりません。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	ボリューム(MASTER VOLUME)が下がっています。	ボリューム(MASTER VOLUME)を上げてください。(3ページ参照)
	ヘッドフォン(またはヘッドフォン変換プラグ)が接続されています。	ヘッドフォン(プラグ)を抜いてください。(5ページ参照)
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください。(19ページ参照)
特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音ができる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。

仕様

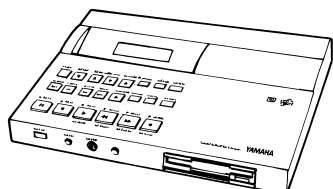
鍵盤	88鍵(A-1 ~ C7)、イニシャルタッチ付き
音源	AWM音源
最大同時発音数	最大28音
音色	ピアノ、エレクトリックピアノ1、エレクトリックピアノ2、ハープシコード、オルガン
効果・機能	デュアル、トランスポーズ、ピッチコントロール、メトロノーム、テンポ、デモ演奏
レコーダー	録音/再生、早送り
その他コントロール	電源スイッチ、ボリューム、ダンパーペダル、ソフト/ノステヌートペダル
付属端子	ヘッドフォン端子(x2) AUX出力端子(L/L+R、R)：出力インピーダンス600 Ω AUX入力端子(L、R)：入力インピーダンス10k Ω /入力感度-10dBm、MIDI端子(IN、OUT)
メインアンプ	20W × 2
スピーカー	16cm × 2
定格電源	AC100V、50/60Hz
消費電力	30W
外装	仕上げ：ダークローズウッド調仕上げ 間口：139.2cm 奥行き：47.0cm 高さ：81.5cm(97.2cm*) 重量：51kg
装備	回転式キーカバー兼譜面立て
付属品	ヘッドフォン HPE-3、高低自在椅子 BC-25、保証書、ご愛用者カード、取扱説明書(本書)

* 高さ()内は、回転式キーカバー兼譜面立てを立てた場合仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

オプション(別売品)のご紹介

ディスクオーケストラユニット DOU-10

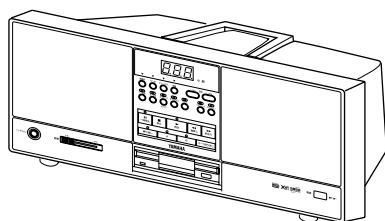
¥69,000



音源を備えた、16トラックのシーケンサー(録音/再生機器)です。J-1000と接続して、「ピアノアンサンブル」(右記参照)を再生したり、J-1000にない多彩な音色で演奏/録音したりするのに最適です。

ミュージック データ プレーヤー MDP10(伴奏くん)

¥58,000



スピーカー一体型の、ミュージックデータ再生専用モジュールです。「ピアノアンサンブル」や「ピアノソフト」をはじめとした幅広い種類のディスクソフトを簡単操作で再生できます。

主なディスクソフトのご紹介

ピアノ アンサンブル

ピアノとバックバンド/オーケストラのアンサンブルソフトです。鑑賞はもちろん、バックバンド/オーケストラパートをバックに、ピアノパートをご自身で演奏して楽しむこともできます。楽譜付きです。

ピアノソフト

内外の一流ピアニストの演奏が収録されたソフトです。クラシック、ジャズ、ポピュラーなどの多彩なジャンル、豊富な曲数の中から選べます。

(一部J-1000ではご利用いただけないタイトルもあります。)

ミュージック Mumaについて

Mumaとは、ヤマハ独自の音楽データ店頭販売システムです。店頭に設置されているMuma専用コンピューターで、音楽データをアルバム単位または自由選曲方式でお選びいただき、専用フロッピーディスクに収録してご購入いただけます。ピアノソフトの多くを含む豊富な音楽データが取り揃えられています。

- ・上記のソフトについて詳しくは、ソフトカタログをご覧ください。

表示の価格には、消費税は含まれていません。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

保証書

本機には保証書がついています。保証書は販売店がお渡しますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げ日から本体は1年間、ヘッドフォンは6ヵ月です。

保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

修理のご依頼

異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お持ち込み窓口)

北海道サービスセンター	〒064	札幌市中央区南10条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL. 011-512-6108
仙台サービスセンター	〒983	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL. 022-236-0249
首都圏サービスセンター	〒211	川崎市中原区木月1184 TEL. 044-434-3100
東京サービスステーション*	〒108	東京都港区高輪2-17-11 TEL. 03-5488-6625
浜松サービスセンター	〒435	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL. 053-465-6711
名古屋サービスセンター	〒454	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL. 052-652-2230
大阪サービスセンター	〒565	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL. 06-877-5262
四国サービスステーション	〒760	高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック高松店内 TEL. 0878-22-3045
広島サービスセンター	〒731-01	広島市安佐南区西原6-14-14 TEL. 082-874-3787
九州サービスセンター	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092-472-2134
[本社] カスタマーサービス部	〒435	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL. 053-465-1158

デジタルピアノに関するお問い合わせ窓口

ポータブル楽器インフォメーションセンター

〒430 静岡県浜松市中沢町10-1 TEL. 053-460-1696
受付日 月曜日～金曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)
受付時間 10:00～12:00 / 13:00～17:00

北海道支店 第二営業課	〒064	札幌市中央区南10条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL. 011-512-6113
仙台支店 第二営業課	〒980	仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命仙台青葉通りビル TEL. 022-222-6147
東京支店 第二営業部 企画課	〒108	東京都港区高輪2-17-11 TEL. 03-5488-5476
関東支店 第二営業課	〒108	東京都港区高輪2-17-11 TEL. 03-5488-1688
名古屋支店 第二営業課	〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL. 052-201-5199
大阪支店 第二営業部 第二営業課	〒542	大阪市中央区南船場3-12-9 心齋橋プラザビル東館 TEL. 06-252-7491
広島支店 第二営業課	〒730	広島市中区紙屋町1-1-18 TEL. 082-244-3749
九州支店 第二営業課	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092-472-2130
電子楽器営業部 ポータブル楽器営業課	〒108	東京都港区高輪2-17-11 TEL. 03-5488-6641

住所および電話番号は変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

M.D.G., EMI Division C Yamaha Corporation 1995
VU13260 708APAP5.2-04D0 Printed in Japan